博士論文要旨

氏名	川﨑　弥生
学位の種類	博士(人間科学)
学位授与の条件	神戸女学院大学学位規定第５条２項の規定による
学位論文題目	Cross-Linguistic False Recognition : How Do Japanese-Dominant Bilinguals Process Two Languages : Japanese and English?

バイリンガルの言語情報処理について、たくさんの研究がなされ、さまざまな論が展開されている。なかでも、各言語の記憶貯蔵庫が独立（二言語貯蔵独立説）なのかそれとも共有（二言語貯蔵相互依存説）なのかという問題がある。バイリンガルの定義についても諸説あり、第二言語を習熟するにしたがって、貯蔵庫の様式も変化するとの説もある。

本研究では、二言語を使用する人をバイリンガルと定義し、英語教育歴が７年以上で日本語を母国語とする大学生74人を実験参加者として、虚記憶を生成させる単語リスト学習パラダイムで、独立－共有の問題を検討した。虚記憶を生成させる単語リスト学習パラダイムでは、単語の連想関係を基に、実験参加者に１つの非提示語（以下、ルアー語）を連想させ、誤って提示されたものとして想起させるように作成された記銘リストが使用される。例えば、ルアー語「needle」を誤って想起させるリストは、「thread」、「pin」、「eye」、「sewing」、「sharp」、「point」、「prick」、「thimble」、「haystack」、「thorn」、「hurt」、「injection」、「syringe」、「cloth」、「knitting」の15単語である。ルアー語は実際には提示されないにもかかわらず、再生テストでリスト語と同程度の確率で誤って想起され、再認テストでもリスト語と同程度の確率で提示される状況をも伴って誤って「あった」と判断されることが示されており、実際の記憶と虚記憶とを区別することが難しいことが示唆されている。

このようなリストを日本語と英語の二言語で提示することで、未だに結論の出ていない二言語貯蔵独立説と二言語貯蔵相互依存説のどちらが支持されるかを従来の研究よりもより詳しく検討可能であろう。なぜならば、このパラダイムにおける虚記憶は連想を基に生成されるため、２つの言語を処理する過程が、提示されたリスト語の処理だけでなく、そのリスト語から連想されるルアー語の処理からも検討できるからである。具体的な操作としては、日本語と英語の二言語で作成したリストを、半数を日本語で残りの半数を英語で提示し、それぞれの提示言語に対して半数は一致した言語で、残りの半数は不一致の言語で再認テストを行うことで、提示時とテスト時の言語の一致と不一致とを操作した。

二言語貯蔵独立説が支持されるならば、リスト語の再認もルアー語の再認も提示言語とテスト言語が一致している方が高くなると予測される。それに対して、二言語貯蔵相互依存説が支持さ

れるならば、リスト語の再認もルアー語の再認も提示言語とテスト言語の影響を受けないと予測される。

その結果、リスト語は、提示言語とテスト言語が一致している方が再認率が高かったことから、二言語貯蔵相互依存説が棄却された。しかし、ルアー語は、提示言語に関係なく日本語で再認されやすかったことから、連想は日本語優位に行われることがわかった。したがって、本研究の実験参加者に対しては日本語優位のアンバランスな二言語貯蔵独立説が支持された。